

1日使い捨てコンタクトレンズ

デイリーズ アクティブ™



レンズの特徴

- 含水率69%のうるおう素材「PVA」に2つのうるおい成分「PEG」と「HPMC」を保存液中に配合。
つけた瞬間から1日の終わりまで優れた装用感※1をもたらします。
- トライカーブデザインを採用した薄いレンズ設計が、滑らかで自然なつけ心地※1を実現します。
- 形状保持性が高いレンズのため装着が簡単。
初めてコンタクトレンズを使用する方にもおすすめです。
- 非イオン性素材のレンズがたんぱく質の付着を抑え※2、眼を清潔な状態に保ちます。

基準データ

USAN	nelfilcon A	含水率	69%
素材	PVA (ポリビニルアルコール)	製造方法	モールド製法 (ライトストリーム®レンズテクノロジー)
ソフトコンタクトレンズ分類	グループII (非イオン・高含水)	カラー	ライトブルー
酸素透過係数(Dk※3)	26×10^{-11}	中心厚	0.10mm (-3.00D の場合)
酸素透過率(Dk/t※4)	26×10^{-9}	刻印	なし

レンズ制作範囲

ベースカーブ	8.7mm
球面度数	-0.50D 0.25D間隔 -6.00D 0.50D間隔 -15.00D
直径	14.0mm

包装

製品	35枚入、100枚入	トライアルレンズ	5枚入
----	------------	----------	-----

※1 個人差があります ※2 出典: あたらしい眼科17 (7) 2000 日コレ誌学会誌42:68-73, 2000
※3 (cm²/sec)・(mLO₂/mLxmmHg) ※4 (cm/sec)・(mLO₂/mLxmmHg)

処方手順

①
問診

②
屈折検査
などの前検査

③
トライアルレンズ
の選択

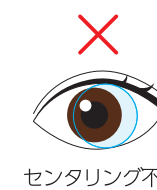
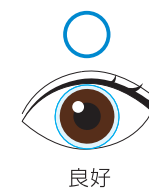
④
フィッティング
評価

⑤
レンズ処方
の決定

レンズ度数の選択は、自覚的屈折矯正値に近似の等価球面度数を選択してください。等価球面度数が±4.00Dを超える場合は、頂点間距離補正後の値を選択してください。
ベースカーブは8.7mm、レンズ径は14.0mmの1種類です。

① センタリング

正面視、上方視、下方視、側方視の状態において角膜が常にレンズで覆われていることを確認してください。

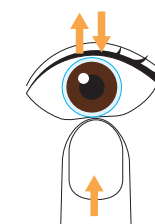


② レンズの動き

正面視、上方視にてスムーズで適度な動きがあるか観察してください。
瞬目時に角膜輪部が露出するような過剰な動きはルーズフィットであり、反対に動きが見られずプッシュアップテストにおいても、スムーズな動きが観察できない場合はタイトフィットですので、いずれも処方不適応と判断してください。

▶ プッシュアップテスト

正面視させ、下眼瞼縁を指で押し上げレンズを上方に動かしたあとのレンズの動きを確認する方法。レンズがスムーズに動かない場合はドロップアウトとなります。



適正なフィッティングが得られていることを確認後、追加補正により、レンズ度数を決定してください。

レンズの装脱方法

①
容器からの
取り出し方

②
表裏の
見分け方

③
レンズの
はめ方

④
レンズの
はずし方

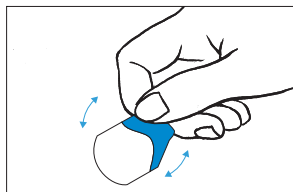
注意

レンズを取り扱う前に下記の項目を患者へご指導ください。
①爪を短く切り、手指を石鹸でよく洗い、十分にすすいでいただく。
②指の水分はよく拭き取っていただく。

取り出し方 1

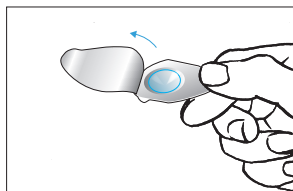
① 容器を振る

- レンズを取り出しやすくするために、まずは容器を軽く振ります。



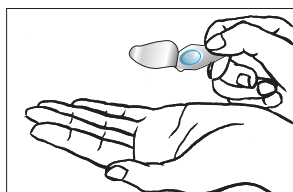
② フタを開ける

- 容器のフタは、レンズを取り出しやすいよう最後までしっかり開けます。



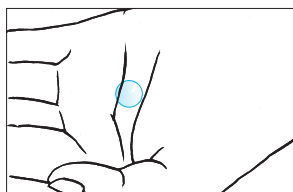
③ 容器をひっくり返す

- 容器をひっくり返し、保存液ごとレンズを手のひらに取り出します。



注意

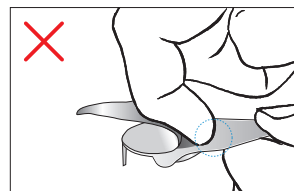
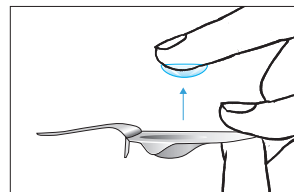
爪が当たらないようにそっとつまんでください。



取り出し方 2

容器から直接取り出す

- 指の腹にレンズをつけてまっすぐ持ち上げます。



注意

- 絶対に爪を立てて、レンズをかき出さないでください。爪でレンズが傷つき、装着時や装用中に破損するおそれがあります。

- 容器やそのフタで指を切らないよう、注意してください。

- 容器から取り出すとき、レンズを傷つけないよう、注意してください。

レンズの装脱方法

①
容器からの
取り出し方

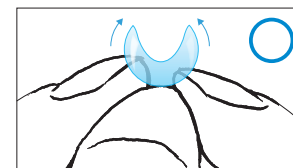
②
表裏の
見分け方

③
レンズの
はめ方

④
レンズの
はずし方

レンズをつまんで見分ける

- 容器から取り出したレンズを人さし指の先にのせ、もう一方の人さし指と親指でレンズを軽くつまみます。
- レンズが裏返っている場合には、図1のようにレンズの先端がわずかに外に反転します。



正常



裏返し
レンズの先端がわずかに反転

注意

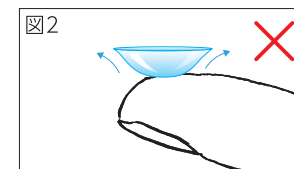
- 強くつまみすぎないようにご注意ください。

レンズを指先の上において見分ける

- 容器から取り出したレンズを人さし指の先にのせます。
- レンズが裏返っている場合には、図2のようにレンズの先端がわずかに外に反転します。



正常



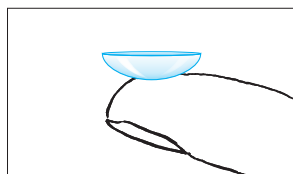
裏返し
レンズの先端がわずかに反転

レンズの装脱方法

- ①
容器からの
取り出し方
- ②
表裏の
見分け方
- ③
レンズの
はめ方
- ④
レンズの
はずし方

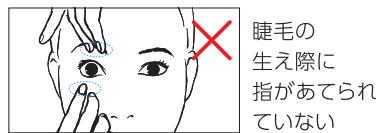
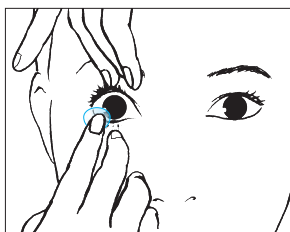
① レンズを指にのせる

- 容器からレンズを取り出します。(「容器からの取り出し方」を参照)
- レンズの裏表を確認します。(「表裏の見分け方」を参照)
- 人さし指の先にレンズの凹面(くぼんだ方)を上にしてのせます。



② 指で眼を開く

- 正面を向いて、もう一方の人さし指、もしくは中指を上眼瞼の睫毛の生え際にあてます。
- レンズをのせた手の中指を下眼瞼の睫毛の生え際にあて、眼を大きく開きます。



睫毛の生え際に指があてられていない



斜めを向いている



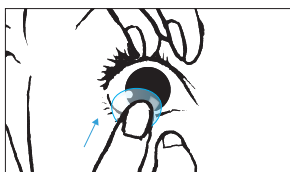
指が邪魔をしている

ワンポイントアドバイス
レンズを入れない方の眼も開いておいたほうがめやすくなります。

注意
睫毛の生え際を、上下にしっかり押さえて、開けてください。

③ レンズを角膜にのせる

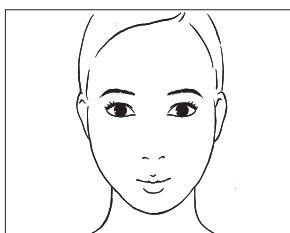
- 真正面から鏡を見ながらレンズをゆっくりと眼に近づけ、角膜にそっとのせます。
- レンズを角膜に正しくのせたら、下眼瞼から指をはなし、ゆっくり眼を閉じます。



注意
眼を細めたり、瞬目するとうまく角膜にのりません。

④ 装用を確認する

- レンズを装用した状態で遠方視と近方視に問題ないかを確認します。



レンズの装脱方法

- ①
容器からの
取り出し方
- ②
表裏の
見分け方
- ③
レンズの
はめ方
- ④
レンズの
はずし方

つまむ方法

① 上目づかいで眼を開く

- 正面の鏡に向かいレンズが正しく角膜にのっていることを確かめます。
- 少しあごをひいて、上目づかいにして、眼を大きく開きます。
- もう片方の眼をふさがないように、きき手と反対の手を上からもってきて、上眼瞼を目の上方から引き上げておきます。
- きき手の中指で下眼瞼を引き下げます。



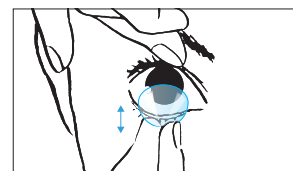
② レンズを押さえる

- あらかじめ手の親指の腹と人さし指の腹とをくっつけてV字形(図1)にします。
- そのままの形でレンズのやや下の部分を両方の指の腹で押さえます。



③ レンズをはずす

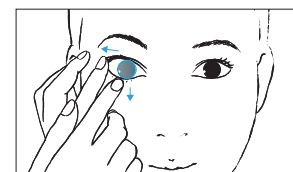
- そのままレンズを下にずらします。
- レンズの下方約半分が球結膜まで下がったら、そのままの状態でやさしく押し上げるような感じでつまみはずします。



はさむ方法

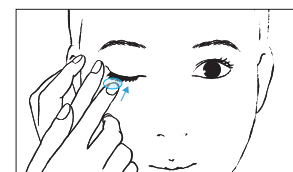
① 正面を向き眼を開く

- 正面の鏡に向かいレンズが正しく角膜にのっていることを確かめます。
- 両方の人さし指、もしくは中指を上下睫毛の生え際にあて、両眼瞼を大きく開け、レンズ全体が見えるようにします。



② レンズを眼瞼ではさむ

- レンズを上下の眼瞼のふちではさみ、押し出すようにします。
- 上眼瞼を固定し、下眼瞼を使って、レンズのふちをすくい上げるようにしてはずします。



ワンポイントアドバイス
強く瞬目をしたり、人工涙液を点眼してレンズに潤いを与えるとはずしやすくなります。

注意
● 爪がレンズにあたらないように注意してください。
● 眼瞼を大きく開けると、瞼結膜が露出しなように睫毛の生え際を押さえます。

レンズがはずせない場合、次の5点をチェックしてください

つまむ指がぬれている	つまむ指を乾かしてください
つまむ指が離れている	指の腹をV字型にくっつけてください
レンズをおさえる位置が狭い(時計の5時7時あたり)	適切な位置を押さえてください(時計の4時8時あたり)
レンズを白目まで引き下げている	レンズを白目まで引き下げてください
つまむとき引っ張っている	つまむときは押してください